

第23回世界神経学会議の京都開催効果について

～大規模 M I C E 開催による京都市内における消費効果は21億円超～

2017年9月16日～21日、国立京都国際会館にて、第23回世界神経学会議（以下、本会議）が開催されましたが、この度、本会議の域内消費額を算出いたしました。併せて、開催効果全体についてまとめましたので、お知らせいたします。

- 本会議主催者発表による総参加者数は、当初5,000人と予定されていたが、世界的観光都市である京都への評価・期待が高まった結果、1.7倍となる8,641名が参加。過去京都で開催された国際会議で最大規模である世界水フォーラム（2003年）、COP3（1997年）に次ぐ大規模 M I C E（国際会議）となった。
- 参加者総数における外国人参加者比率は41%と非常に高く、9月中旬3連休後の宿泊稼働が落ち込む時期に、本会議の外国人参加者による大規模な連泊宿泊需要を生んだことにより、域内消費効果は21.3億円と算出され、観光業界をはじめ、市内で大きな経済効果を生み出した。また、エクスカッション¹では、宇治等の京都府域及び大阪・奈良・神戸等近畿圏へのツアーも多数設定され、広範囲に及ぶ経済効果を創出した。
- レセプションや付帯イベントとして、平安神宮や世界遺産醍醐寺といったユニークベニュー²を活用した大規模なパーティーが開催された。加えてコンベンションパス³の導入により、環境負荷の少ない公共交通機関の利用を促進するなど、近年京都市及び当財団が取り組みを続けてきた数多くの M I C E 開催支援メニューが採用された。

¹ 参加者による視察旅行

² 歴史的建造物等で会議やレセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場

³ 京都で開催されるコンベンションを対象として、京都市交通局が主催者に販売する、地下鉄全線又は市バス地下鉄全線が利用できるコンベンション参加者専用の乗車券

<域内消費効果>

参加者の京都市内泊率・宿泊単価等は「平成25年度京都市における M I C E 実態調査」を参照し算出。外国人個人消費：829百万、日本人個人消費：492百万、事業費等：811百万。（個人消費には参加登録費などの会議参加に関する費用は含まない。）

誘致・開催に当たっては、京都市大規模コンベンション開催支援助成金等を活用しながら、京都府・京都市・国立京都国際会館・京都商工会議所とオール京都体制で支援を実施しました。

M I C E（国際会議）開催による効果は、経済効果のみならず、学術の発展、文化発信・活用、

他地域への波及等多岐にわたり、本会議においても大きな効果がありました。

近年、国際会議開催地としての京都の認知度・満足度が高く評価されており、当財団としては、引き続き行政や関係諸団体と共にオール京都体制にてMICE誘致を行い、京都の都市格の向上、経済効果、最先端の学術に触れる機会の創出、観光の質の向上に寄与してまいります。



国立京都国際会館メインホール



平安神宮

【参考情報】

<概要>

- 1 会議名称：第23回世界神経学会議（WCN2017）
- 2 開催時期：平成29年（2017年）9月16日（土）～21日（木）
- 3 会場：国立京都国際会館
- 4 参加者数：8,641名（海外：3,530名／国内5,111名）

同会議は2年に1度開催される会議で、誘致に際しては、観光庁・日本政府観光局・京都府・京都市・国立京都国際会館等オール京都、オールジャパンで連携して主催者を支援し、2度にわたる投票の末、1981年の京都大会以来36年ぶりの日本・京都開催が決定しました。

1931年から続く同学会の歴史の中で、同一都市にて二度開催される都市は、ロンドン、ウィーンに次いで3都市目となります。